

また、屋敷地Aの東側に、Ⅱ区SD12・SD17等を北・東辺区画溝とする屋敷地Bが成立する。屋敷地Bの成立時期は不詳だが、区画溝内より17世紀前半に遡る遺物も出土していることから、あるいは近世Ⅰ期に屋敷地Aと共に成立した可能性も考えられる。調査区内では屋敷地の北東隅部を確認したのみで不明な点は多いが、屋敷地Aとの位置関係からすれば、ほぼ同規模の屋敷地と考えられる。

### 近世Ⅲ期

本期は、19世紀前葉～末頃を想定する。本期に属する遺構には、Ⅱ区SD23・SD24がある。近世屋敷地は、本期には継続しない。両溝は、現状の地割に合致し、おそらくは農地に伴う用排水路と考えられる。土層断面にみられる近世耕土層の広がりからも、調査前の景観が本期にまでは遡るものと考ええる。

## 第2節 香川県内出土の有舌（茎）尖頭器について

既述したように、本遺跡からはほぼ完形の有舌尖頭器1点129が出土した。供伴する土器資料はなく、後出する遺構からの混入資料であり、それ自体の位置付けは困難である。したがって、香川県内の出土資料を集成し、以下若干の比較検討をおこなうこととする。

香川県内からは、現在32遺跡・地点より39点が出土している。この中には、報告書では有舌尖頭器とされてはいるものの基部が欠損していて判断に迷う資料や、三条番ノ原遺跡や池下遺跡のように可能性はあるが断定できない資料は含めていない。また、東かがわ市五名地区、さぬき市雨滝山西麓、まんのう町長尾で出土が報告されているが、資料を実見しておらず、集計からは除外した。その他未確認の資料がある可能性も否定できず、実数はもう少し増えることと思われる。

出土資料は、表採資料が多く、調査により出土した資料も、後世の遺構や包含層等からの混入資料が大半で、年代的位置付けが困難である。こうした傾向は本県に限られたわけではなく、資料の性格に起因するという指摘もある（白石2010）。この中で、複数資料が出土した遺跡・地点は7箇所あり、いずれも2点が出土している。また、香西南西打遺跡と西打遺跡、川原遺跡と本郷遺跡、川津一ノ又遺跡と川津六反地遺跡、郡家一里屋遺跡と郡家原遺跡等、近接した遺跡で出土する例が数例ある。これらの遺跡では、例えば川原遺跡と本郷遺跡のように、両遺跡でほぼ同形態の資料が出土し、その製作時期が近似していることを示していることは、周辺に当時の集落等が所在した可能性を示唆するものと考ええる。

素材はサヌカイトが多数を占め、ほかに頁岩と泥岩が各1点ある。このうち泥岩とされた長砂古遺跡資料については、実見できておらず、その正否は不明である。おそらくは頁岩等他の石材の可能性が考えられる。

集成した尖頭器は、大型16点（長さ8.3cm以上、幅2.2～3.3cm）、中型16点（長さ5.6～7.5cm、幅1.8～2.7cm）、小型6点（長さ4.2～4.7cm、幅1.5～2.7cm）の規格により大きく3類に分類され、大型と中型で8割以上を占める。

次に形態について分類を行う。分類の基準は鈴木氏の分類案（鈴木1986）に従い、主に身部と基部の形状により細分を試みる。分類の詳細は第6表を参照されたい。分類の結果、基部は平基のものが、身部は外彎形態がそれぞれ多数を占める傾向が指摘できる。また、大型と中型で、形態の酷似する資料があり（例えば、中型の城山、原中村と、大型の逃田南、小山・南谷例等）、規格の相違は、狩猟対象に対する選択を示唆しているものと考ええる。

さて、鈴木氏は分類の結果、基部の形状に注目し、1～4段階の変遷を想定された。氏の変遷案は主に関東地方の出土資料をもとに組み立てられており、若干の地域差はあるだろうが、全体的な変化の方向性として普遍性を有すると考える。本地域の資料は、氏の変遷案で第3段階後半の様相を示すものが主体を占めるといえよう。

そうした中で、本遺跡出土の資料は、細身で大型・尖基・外彎形態を呈する本県では唯一の出土例であり、上記した資料群よりは古い様相（第2段階）を示している。尖基式のものは、本県では鳥嶼部や低位段丘上（前田東・中村遺跡、十川東・平田遺跡）を中心に出土しており、主体となる資料が多く出土した沖積扇状地の遺跡群とは立地において差が認められることも、上記想定と矛盾しないものと考ええる。

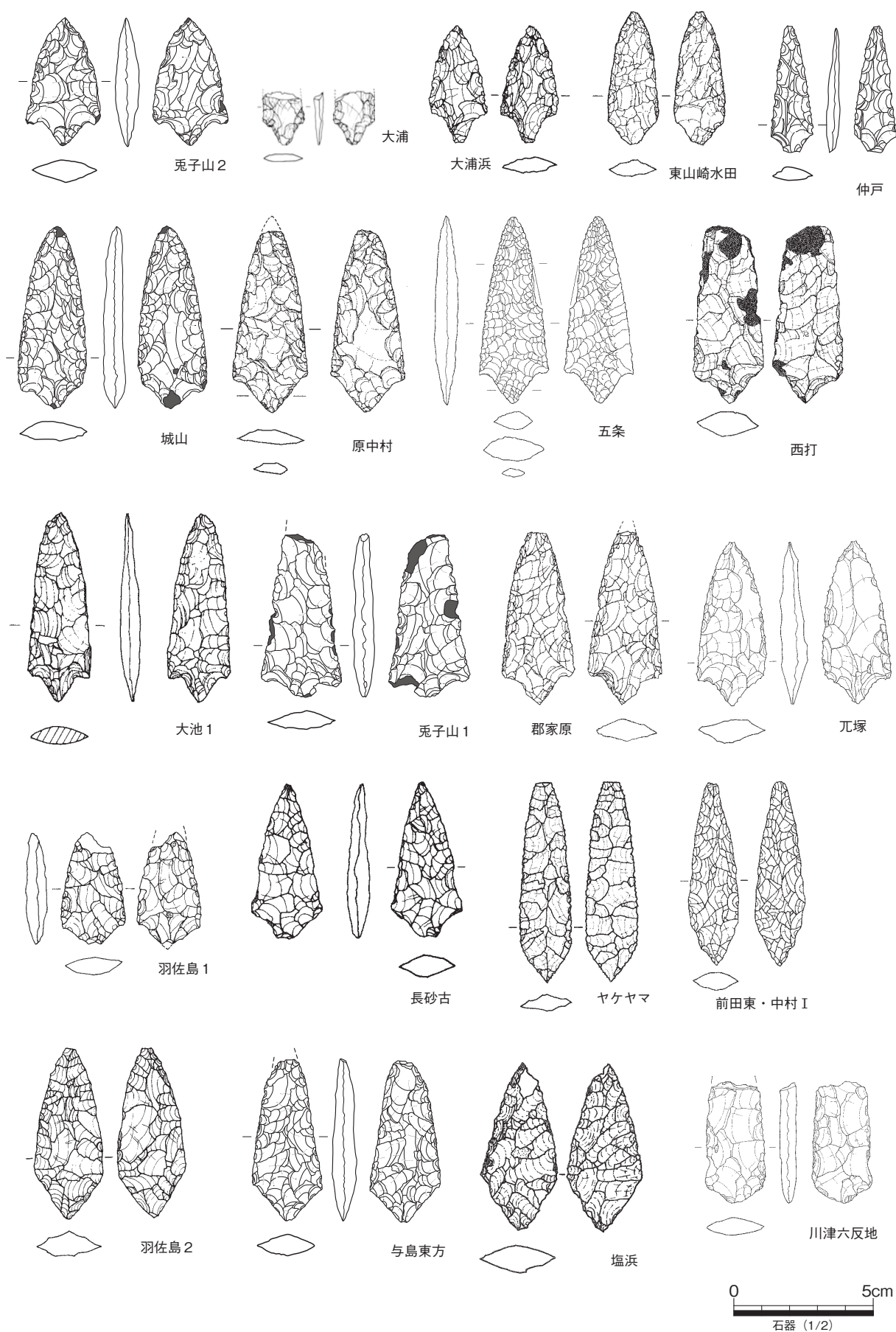
今後は資料の集成をさらに進めると共に、周辺地域の資料との比較検討などを進める必要があり、また土器資料と供伴した良好な資料の出土を期待したい。

### 引用・参考文献

- 白石浩之 2010「縄文時代草創期」『日本列島の旧石器時代遺跡 ―日本旧石器（先土器・岩宿）時代遺跡のデータベース―』日本旧石器学会
- 鈴木道之助 1986「新東京国際空港№12遺跡の有舌尖頭器をめぐって」『千葉県文化財センター研究紀要 10』

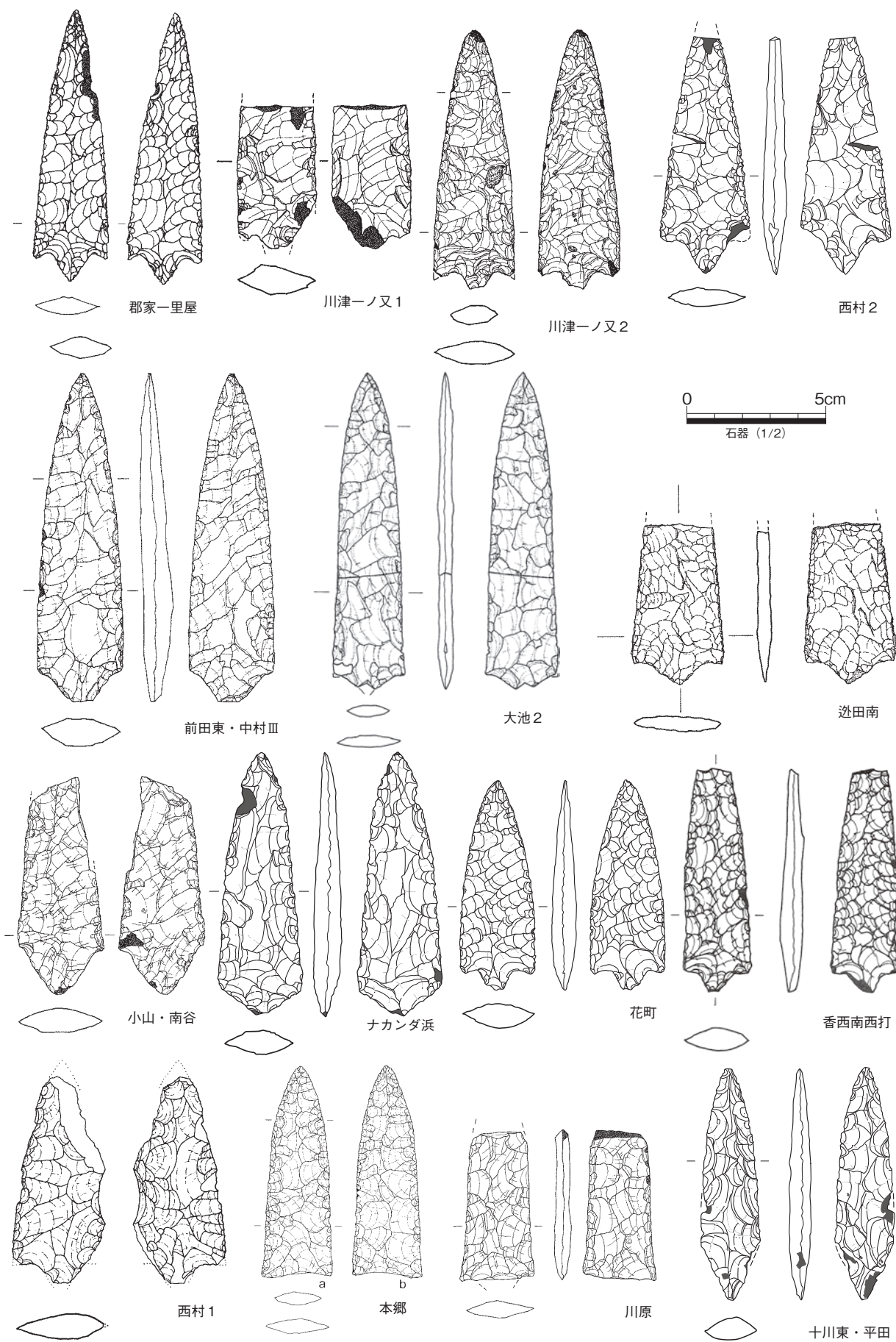
第6表 香川県内出土有舌尖頭器一覧

遺跡名	所在地	出土位置	報告番号	石材	計測値 (cm・g)			残存	分類		備考	文献
					現存長	最大幅	最大厚		規格	基部 身部		
熟田橋遺跡	東かがわ市引田	SK05	57	サヌカイト	5.7	3.3	0.5	11.7	大型	平基 直線		東かがわ市教育委員会編 2009 「熟田南遺跡」
仲戸遺跡	東かがわ市川東	SD04	51	サヌカイト	4.5	1.5	0.5	2.70	小型	平基 直線		香川県教育委員会 2016 「一般国道 11 号大内白鳥バイパス道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 1 冊 仲戸遺跡・仲戸東遺跡」
原中村遺跡	高松市赤丸町原	SR01	328	サヌカイト	6.5	2.6	0.6	9.97	中型	平基 直線		香川県教育委員会編 2000 「原中村遺跡」
小山・南谷遺跡	高松市南新田町	SR625	2533	サヌカイト	7.7	3.1	0.9	20.2	大型	平基 直線		香川県教育委員会 2006 「旧高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅱ」
前田・東・中村遺跡	高松市南田東町	F 区 SR01	433	サヌカイト	6.5	1.8	0.7	7.1	中型	尖基 外彎		香川県教育委員会 1995 「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 3 冊 前田東・中村遺跡」
十川東平田遺跡	高松市十川東町	N③ SR01	94	サヌカイト	11.7	3.0	0.6	36.99	大型	平基 外彎		香川県教育委員会編 2006 「前田東・中村遺跡Ⅲ」
東山崎・水田遺跡	高松市東山崎町	II 区 SK02	973	サヌカイト	8.3	2.2	0.8	12.31	大型	尖基 外彎		本書
大池	高松市林町	D 区包含層		サヌカイト	4.7	1.8	0.7	5.2	小型	平基 外彎		香川県教育委員会編 1992 「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 1 冊 東山崎・水田遺跡」
		表探	第 10 図 1	サヌカイト	6.7	2.2	0.7		中型	平基 直線?		香川県教育委員会編 1988 「改訂新領讃岐岡山田郡田園比定域発掘調査概報Ⅰ」
		II 区 中世包含層		サヌカイト	11.4	2.7	0.6	15	大型	平基 直線		浜田重人 1994 「高松市木太町大池遺跡集の有舌尖頭器」 「香川考古」 第 2 号
香西南西打遺跡	高松市香西南町	SI13		サヌカイト	8.0	2.4	0.9	15.8	大型	平基 直線		高松市教育委員会編 2000 「香西南西打遺跡 - 高松港地区再開発関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」
西打遺跡	高松市香西南町	E3 区包含層	1342	サヌカイト	6.4	2.5	1.0	15.85	中型	平基 直線		香川県教育委員会 2002 「サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 2 冊 西打遺跡Ⅱ」
瓦塚遺跡	高松市南新田町	SR602	591	サヌカイト	5.8	2.5	1.0	10.92	中型	平基 外彎		香川県教育委員会 2014 「旧道三本四分寺線道路改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 ▲瓦塚遺跡」
川原遺跡	高松市川原町	石部ブロック	44	サヌカイト	5.3	2.6	0.6	10.68	大型	平基 平行		
本郷遺跡	高松市中間町	石部ブロック	1	サヌカイト	7.6	2.5	0.6	10.86	基部折損	大型 平基 平行		香川県教育委員会編 2008 「旧道川原町座香南線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 2 冊 本郷遺跡・川原遺跡」
鬼子山遺跡	高松市国分寺町	表探		サヌカイト	5.8	2.9	0.7	10.46	中型	平基 直線	川畑勉氏田蔵資料	本書
		表探		サヌカイト	4.6	2.7	0.8	7.65	小型	凹基 外彎	川畑勉氏田蔵資料	本書
西村遺跡 (山原地区)	綾歌郡綾山町陶	N24 - 第 3 層	第 4 図 3	サヌカイト					基部折損	大型 平基 外彎		香川県教育委員会編 1982 「西村遺跡Ⅲ - 旧道 32 号線南バイパス建設工事にもなう埋蔵文化財発掘調査 -」
西村遺跡	綾歌郡綾山町	N5 SP6		サヌカイト	8.5	3.2	0.8	17.49	大型	平基 直線	川畑氏田蔵資料	本書
城山 (龍淵・龍王宮下)	坂出市西庄町龍淵	表探		サヌカイト	7.2	2.7	0.8	15.66	中型	平基 外彎	坂出市教委所蔵、川畑氏田蔵資料	本書
花町	坂出市花町	表探		サヌカイト	7.5	2.7	0.9	15.84	大型	平基 外彎	川畑氏田蔵資料	本書
ナカンダ谷遺跡	坂出市砂塚島	表探		サヌカイト	8.4	2.7	0.8	17.39	大型	尖基 外彎	坂出市教委所蔵、川畑氏田蔵資料	本書
重石ノ鼻	坂出市直島町	表探		サヌカイト								
荒神島	坂出市直島町	表探		サヌカイト	4.2	2.7	0.6	6.5	小型			鎌木義昌・高橋謙 1965 「瀬戸内海地方の先史器時代」 「日本の考古学Ⅰ 先史器時代」 河出書房新社
大浦遺跡	坂出市瀬石島	f 列 16 上層	520	サヌカイト	2.8	2.2	0.4	2.86	小型	平基 平行		長井謙治 2000 「愛媛県今治市阿方大池採集の有舌尖頭器」 「旧石器考古」 59
ヤケヤマ遺跡	坂出市瀬石島		第 16 図 1	サヌカイト	7.2	1.8	0.6	7.78	基部折損	中型 尖基 直線		香川県教育委員会編 1984 「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ 大浦遺跡」
		ヤケヤマ東 H3 第 4 層 A2・2・aN	第 72 図 3	サヌカイト	4.2	2.1	0.6	4.3	小型	平基 外彎		香川県教育委員会編 1983 「旧田遺跡・ヤケヤマ遺跡・大浦浜遺跡・長崎通り遺跡 - 長崎古墳 - 瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ」
大浦浜遺跡	坂出市瀬石島	南端小砂浜	第 128 図 110	サヌカイト	4.0	2.4	0.7	6.7	中型	平基 外彎		香川県教育委員会編 1988 「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ 大浦浜遺跡」
		S 区耕土層	第 19 図 3	サヌカイト	5.9	2.7	1.0	12.66	中型	尖基 直線		香川県教育委員会編 1988 「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ 大浦浜遺跡」
与島東方遺跡	坂出市与島町	包含層	E・25	サヌカイト	5.8	2.5	0.8	10.61	中型	尖基 直線		香川県教育委員会編 1984 「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ 羽佐島遺跡 (Ⅰ)」
川津六反地遺跡	坂出市川津町	II - 1 区包含層	第 72 図 429	サヌカイト	4.4	2.2	0.7	7.26	中型	尖基 平行	再実測	香川県教育委員会 1973 「香川県埋蔵文化財調査報告 与島東方遺跡」
川津一ノ又遺跡	坂出市川津町	SD03	741	サヌカイト	5.1	2.9	1.0	18.3	大型	凹基 平行		香川県教育委員会編 2014 「旧道 438 号道路改良工事・県道道熊字多津線道路改良工事・城山川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津六反地遺跡・川津昭信遺跡」
三条番ノ原遺跡	丸亀市三条町	包含層	SH08	サヌカイト	9.2	2.9	0.8	22.0	大型	凹基 外彎		香川県教育委員会 1997 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 25 冊 川津一ノ又遺跡Ⅰ」
		II 区 SR02	287	サヌカイト	3.7	2.4	0.6	6.7	中型	平基 外彎	可能性あるが断定困難	香川県教育委員会 1998 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 30 冊 川津一ノ又遺跡Ⅱ」
郡家一里原遺跡	丸亀市郡家町	II 区 SD09	3	サヌカイト	26	0.5			大型	平基 外彎?		香川県教育委員会 1992 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 11 冊 三条番ノ原遺跡」
郡家原遺跡	丸亀市郡家町	SD187	726	サヌカイト	6.2	2.7	0.8	12.33	基部折損	中型 平基 外彎		香川県教育委員会編 1983 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 12 冊 郡家一里原遺跡」
池下遺跡	丸亀市綾歌町栗熊東	包含層	418	サヌカイト	5.9	1.7	0.9	10.5	上部折損		可能性あるが断定困難	香川県教育委員会 2008 「一般国道 32 号線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 2 冊 住吉遺跡・渡池跡・北内遺跡・瀬通寺市教育委員会編 2012 「三条遺跡発掘調査報告書 - 普通通寺市立徳川小学校校舎増築等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ」
五条遺跡	普通通寺市原田町	SD04	第 12 図 24	頁岩	6.6	2.5	0.9	12.45	基部折損	中型 平基 外彎		普通通寺市教育委員会編 1988 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 5 冊 石田遺跡・長砂古遺跡・作田大工遺跡」
長砂古遺跡	観音寺市徳ノ屋町	包含層	第 19 図 74	泥岩	5.6	2.5	0.9	9.71	中型	平基 内彎		



第118図 香川県内出土有舌尖頭器実測図1





第119図 香川県内出土有舌尖頭器実測図2